

文書館のしごと⑨
資料の虫害対策

古文書などの古い紙資料には、シミやシバムシといった害虫あるいはカビなどの菌類がついていることが少なくありません。これらを駆除するための対策として、文書館では有毒ガスによる燻蒸を長く行ってきました（文書館だより第八号参照）。この方法は殺虫・殺菌を効果的に行えることから、文化財の虫菌害対策として、文書館だけでなく博物館や美術館などでも積極的に推奨されてきました。しかし、この有毒ガスにはオゾン層を破壊する物質が含まれているため、昨年以下の使用ができなくなりました。これからは、地球環境や人体への影響にも配慮しつつ、文化財の性質や虫菌害の内容・程度に応じた処置を施すことが求められることになるでしょう。

そこで広島県立文書館では、有毒ガスを使った燻蒸に代わる方法として、段階的な虫害チェックと新たな薬剤による燻蒸を昨年度から始めました。その方法は次のようなものです。

(田)まず、生きた虫がいなかろうか、目で確認します。(月)次に、文書が入っている容器ごとにトラップを仕掛け、一週間ほど様子を見ます。(火)もし、トラップに虫がかかっていた場合、あるいはトラップを仕掛けるまでもなく目で虫の存在



トラップを仕掛ける

が確認できる場合は、ブンガノンVAプレートと呼ばれる薬剤を文書が入っている容器ごとに入れ、ビニールシ

ートなどで密封します。この状態で約一〜二週間安置します。(水)ブンガノンによる燻蒸が済めば、書庫に搬入する前に再度トラップを容器ごとに仕掛け、生きた虫がいなかチェックします。(木)そして、虫がいなことが確認できれば、そこで初めて書庫へ搬入します。

もつとも、文書館で受け入れる資料には、行政刊行物のように、まず虫がいなことが確実なものもあります。そのようなものについては、トラップを仕掛けるまでもなく、直ちに書庫へ搬入する場合があります。



ブンガノンVAプレートの投入



ビニールシートでの密封作業

ブンガノンには殺虫・防虫作用があり、文書や文化財だけでなく、家庭での衣類の保管にも使用することができます。ただし、菌類の害を除去する効果はありません。資料がカビなどの被害を受けている場合は、外気に当てて乾燥させ、刷毛などを使って取り除くか、重度の被害を受けた資料については、専門の修復士に対策を相談することが必要となります。

もちろん、資料の虫害対策はこれで万全というわけではありません。書庫に搬入したあとで虫が発見される可能性もありますし、書庫を開閉する際に虫や菌類が入り込むことも十分に想定できます。そのため、書庫内の状況を一定期間ごとに点検するなど、できるだけ小まめなチェックを行うことが、これからの保管管理のあり方として、重要なことだと言えるでしょう。
(西向宏介)

ジョイント展開催のお知らせ

戦後の広島を撮影したドキュメンタリー・グラフ『Living Hiroshima(生きている広島)』〈昭和24年刊、発行責任者田中嗣三〉の編集関係資料を中心に、戦後の広島市街や県内各地の風景を撮影した写真および関連資料を展示します。

広島県立文書館

戦後広島ドキュメンタリー・グラフ

—田中嗣三と『生きている広島』—

場所 広島県立文書館展示室
休館日 土曜日12時以降、日曜・祝日

広島県立図書館

写真が語る戦後の広島

—『生きている広島』を中心に—

場所 広島県立図書館展示コーナー
休館日 月曜日、祝日

開催期間 平成18年7月11日(火)～9月22日(金)